

令和7年度 第1回 浜松市発達障害者支援地域協議会

日 時：令和7年8月7日（木）午後7時から

場 所：浜松市口腔保健医療センター 講座室

次 第

1 開会

2 こども家庭部長挨拶

3 議事

（1）報告

ア 部会（高校生年代の支援について）について 資料1 資料2

イ 5歳児健康診査事業の検討状況について 資料3

ウ 各課の取組状況について 資料4

（2）協議・質疑

4 その他

5 閉会

令和 7 年度 浜松市発達障害者支援地域協議会第 1 回部会報告 (高校生年代の支援について)

1. 開催日時 令和 7 年 6 月 26 日 (木) 10 時 00 分～11 時 30 分
2. 開催場所 こども家庭部 大会議室
3. 参加者
 - ・大場 義貴 (聖隷クリストファー大学社会福祉学部 教授)
 - ・小出 隆司 (静岡県手をつなぐ育成会 会長)
 - ・浅井 陽子 (アクティブ 代表)
 - ・今関 優 (学校法人 倉橋学園 キラリ高等学校)
 - ・石井 亜矢子 (静岡県立浜松大平台高等学校)
 - ・横原 昇司 (浜松市立江南中学校 校長)
 - ・平川 悦子 (スクールソーシャルワーカー)
 - ・柿畑 新也 (浜松公共職業安定所 主任就職促進指導官)
 - ・遠藤 知子 (障害者就労支援センター「ふらっと」 就労支援員)
 - ・神谷 礼子 (地域若者サポートステーションはままつ 総括コーディネーター)
 - ・後藤 翔一朗 (浜松市障がい者基幹相談支援センター)
 - ・鈴木 綾乃 (浜松市こども若者総合相談センター「わかばプラス」センター長)
 - ・事務局 (教育センター、教育支援課、障害保健福祉課、こども若者政策課、子育て支援課、ルピロ)
4. 概要 高校生年代の支援についてわかばプラス、ルピロの取り組み内容について報告し、委員より意見をいただいた。
5. 協議内容
 - (1) 浜松市の高校生年代における地域支援体制整備に向けた実施状況について
資料 2 参照
 - (2) 委員からの意見等
 - ・ 連携のためには機関同士が役割や支援内容について知ることに加え、対象者についてしっかりとアセスメントすることが必要。
 - ・ 発達障害だけではなく、不登校や家庭環境の問題、外国ルーツなどさまざまな問題を抱えている生徒がいるため、様々な面から検討する必要がある。
 - ・ 高校教員の感度を上げていくことも支援につなげるためには必要となってくる。
6. 今後の予定
 - (1) 高校等への訪問の実施
 - (2) 関係機関との情報共有、事業周知
 - (3) 高校生年代の課題と支援ニーズに関する調査の実施 (11 月～12 月)
 - (4) 第 2 回部会開催 (2 月上旬)
 - (5) 第 2 回発達障害者支援地域協議会開催 (2 月下旬)

浜松市の高校生年代における 地域支援体制整備に向けた 実施状況について

浜松市発達相談支援センター「ルピロ」
浜松市こども若者総合相談センター「わかばプラス」

(1) 高校等の情報収集

【令和6年度】

通信制高校への訪問: わかばプラス、地域若者サポートステーションはままつ、ルピロにて

- 通信制高校訪問件数: 10件
- 電話での問い合わせ件数: 2件

訪問目的:

- 活動の周知
- 外部機関活用の可能性拡大
- 学校の特徴や生徒の実態把握

(1)-2 高校等の情報収集

現状：

- 生徒に何らかの課題があるということは把握している。しかし、課題があることに対して、見合った支援をされているのかということとははっきりとしなかった。
- 通信制の利用が難しくなった際にどう支援をするかといった視点はあまりない。
- 学校の中で行えるサポートをしており、外部機関とのやりとりはあまり聞かれなかった。他機関と連携している通信制高校もあるが、自校で完結している学校も多い。
- 広域の通信制高校では個別での対応は少ない。
- あくまで単位を取って高校卒業の資格を得ることが目的である学校が多い。卒業後の生活の視点がどこまで持っているのかわからない。

(1)-3 高校等の情報収集

課題：

- ① 高校生年代の方が学校とは異なる場所で話ができる場所、校内で集まれる場所や相談ができる機関が必要。
※地域の資源として、相談先があることを伝えた。
- ② 学校の中の支援体制や実態が見えてこない。アンケート等の調査にて実態を調査をする
- ③ 社会に出るために必要な力を身に着けることが求められる。

(1)-4 高校等の情報収集

【令和7年度】

市内高等学校、通信制サポート校などへの訪問：

わかばプラス、ルピロにて

各訪問件数：

私立高校：8件、公立高校14件、通信制高校8件(6月26日時点)

訪問の目的：

- 活動の周知
- 学校の支援体制、先生方の現場での課題について聞き取り
- アンケートへの協力依頼

(1)-5 高校等の情報収集

現状：

- 校内支援として使える資源に公立と私立で差がある。外部機関との連携について、どこに相談をしたら良いのか悩む。
- 中学校からの引継ぎの情報は少ない。受験があるため情報の引継ぎがより難しくなっている。
- 今までどこにも相談や繋がらなかったり、特性の受け入れが難しかったりする場合は本人や家庭に支援が入りづらい。
- 生徒たちとの関係づくりを考えている学校もあるが、必要時の関わりに絞られる場合もある。
- 社会に出て働くことを考えた際に職業準備を行っているという学校もあるが、そこまでの対応が難しく、卒業を迎えている学校もある。

(1)-6 高校等の情報収集

課題：

- ① 外部機関との連携をどのように取っていくのか体制を整える必要がある。校内支援体制に差があり、特に外部機関との連携についてはサポートが必要。
- ② 中学校から高等学校への情報、支援をスムーズに引き継ぐ体制が必要。
- ③ 困難を抱える高校生や保護者が、診断の有無にかかわらず、早期に適切な支援にアクセスできる支援、また身近に話ができる場が必要。
- ④ 小集団での話す場の提供、カフェなどの居場所づくりが求められる。
- ⑤ 就労や生活を考えた際に必要な力を身に着ける場が求められる。

(2)浜松市の発達障害者支援についての周知

今年度始まった地域支援マネジャーについて周知、地域での課題について知るため、協議会・連絡会への参加や他機関との情報共有を実施している

訪問目的：

- 発達障害者支援に関わる支援機関との連携
- 支援機関の協議会、連絡会に参加して、「顔の見えるネットワーク」を構築
- 地域での支援体制の現状把握

(2)-2浜松市の発達障害者支援についての周知

現状：

- 基幹相談支援センター、児童発達支援センター等、それぞれの分野で中核的支援を行っている機関や青年期の支援に関して、課題意識をもって動いている機関が既にあるが、こういった活動をしているのか現状では把握できていない。
- ルピコと現状では関わりがなかった機関でも訪問にてお話を聞くと関連する部分があると思われた。
- 当事者の支援だけでなく、保護者や兄弟姉妹への支援が求められている。

(2)-3浜松市の発達障害者支援についての周知

課題：

- ① 情報共有、話し合いを行い、他の機関が実施していること、実施できていないことを知り、ルピコに何が求められているのか考える視点が必要。
- ② 他機関がこういった支援を行っているのか実態を知らない点もあるため、継続的なやりとりが必要。
- ③ 各機関との連携が求められる。早期に求められる機関との繋ぎや継続的な支援が必要。

(3)相談につながらない人の実態把握

- 高校生年代の課題と支援ニーズに関する調査を実施

調査目的：

- 学校訪問を通し、発達特性に起因する困り感を抱えている生徒が一定数存在し、進路不安や学習・対人関係の困難などを抱えていることが予想される。教育・福祉・就労分野の連携や強化をし、障害の有無にかかわらず高校生年代からの切れ目のない支援と進路支援を目指すためにアンケート調査を実施予定。
- 11月からアンケートを開始することを目指し、外部専門機関に委託を予定。内容についてはわかばプラス、ルピロと相談の上で決定する。

5 歳児健康診査事業について（経過報告）

健康福祉部健康増進課

1 令和 6 年度の検討結果

- ・保健・医療・福祉・教育の関係課及び関係機関からなる全 5 回の庁内外プロジェクトチーム会議を開催し、効果的な健診方法やフォローアップ体制を協議。
- ・年中児を対象に、幼稚園・保育所などの所属園で健診を実施。
- ・健診方法は、「巡回一次スクリーニングによる発達評価」と「園医健診による一般健診」、「保護者説明会」、「園訪問や保護者支援等を行う事後支援」を実施する。
- ・実施時期は、令和 8 年度から段階的实施することとし、令和 7 年度においてはモデル園にて試行的実施により、課題の抽出、改善に向けての検討を行い、健診の体制整備を行っていく。

2 令和 7 年度の実施

- ・4 月に所属園 260 園程度に対し、協力依頼などの調査を実施。
- ・7 月から令和 8 年 3 月までの間で、モデル園 10 施設において試行的に健診を実施。
- ・試行的実施に携わる関係者からなる実務者会議を年 6 回開催し、運用フロー等について協議。
- ・令和 6 年度に引き続き、庁内外の有識者からなる検討会を年 4 回開催し、試行的実施の結果や実務者会議での課題などを共有、協議する。また、健診結果等の情報等を学校教育にどのように効果的につなげるか等の実施体制の整備を検討する。
- ・令和 8 年度以降に実施する集団健康診査の実施方法について小児科医会の先生方と検討する。
- ・秋以降、園医の先生方へ、説明会を開催予定。

3 その他

＜庁内外検討会について＞

- ・参加者：庁外 9 団体 9 名、庁内（事務局含む）9 課 21 名

オブザーバー：デジタル・スマートシティ推進課、情報システム課

庁外（50 音順）

1	一般社団法人 浜松市医師会
2	社会福祉法人 浜松市社会福祉事業団
3	社会福祉法人 ひかりの園
4	特定非営利活動法人浜松政令市医師会
5	浜松市障がい者基幹相談支援センター
6	はままつ児童発達支援ネットワーク連絡会
7	浜松市発達相談支援センター「ルピロ」
8	浜松市私立幼稚園協会
9	浜松民間保育園長会

庁内（部局順）

1	健康福祉部	障害保健福祉課
2	健康福祉部	中央健康づくりセンター
3	健康福祉部	浜名健康づくりセンター
4	健康福祉部	天竜健康づくりセンター
5	こども家庭部	子育て支援課
6	こども家庭部	幼保運営課
7	学校教育部	教育支援課
8	学校教育部	健康安全課
事務局	健康福祉部	健康増進課

5歳児健康診査事業のフロー

【別紙】

